

生涯にわたって学び続け、その「学び」を社会の中で生かす。「学び」から「行動」へ  
**地域で展開される住民参加の活動や NPO 活動などをとりあげます。**

今号の  
 視点

湯梨浜町で子育てについて気軽に相談できる場の提供と、子どもたちを支える環境づくりに取り組む「ゆりはま子育てネットワークくぶくぶ」。その取組について取材しました。



「ぐ～たらママ」で談笑する参加者

みんなで育てる、地域で育てる

## ～ ゆりはま子育てネットワークくぶくぶ（湯梨浜町） ～

### 子育てをもっとオープンに

ゆりはま子育てネットワークくぶくぶ（以下、「くぶくぶ」と略）は令和4年4月に活動をスタート。ハワイ語で「新芽」を意味し、子どもたちがたくましく芽吹き、すくすく育ち、地域に自然と笑顔が生まれるようにとの願いが込められています。親子で過ごせる遊び場「あそび～の」と産後のママをケアする「ぐ～たらママ」を月1回ずつ開催。子育ての悩みや不安を気軽に相談できる場の提供と、いろいろな人が子どもたちを支える環境づくりに取り組みます。

メンバーの山増香里やまますかおりさんは、くぶくぶができる前から子育て中の方が赤ちゃんといっしょに集える場「おはな」を運営していました。「おはな」はハワイ語で「家族」を意味し、月に1回町内にある橋津地区公民館はしづで開催。自身も子育て中だった山増さん。「自分自身、子育てがとても大変だった。子育ては、たくさんの目

があるだけで楽になる」と、「おはな」をはじめた理由を話します。「おはな」の活動をSNSに投稿したところ、町外の方からも参加したいという声があったそう。町外の方も来られて、まちづくりにもつなげたいと、「おはな」は「くぶくぶ」へと発展していきました。

### 「あそび～の」と「ぐ～たらママ」

「あそび～の」は親子で過ごせる遊び場で、子どもたちがおもいっきり遊びます。毎月第3日曜日に湯梨浜学園のグラウンドや町内公民館などで開催。参加の募集は、Instagramやフェイスブック、口コミで広めるほか、公式LINEでも知らせます。毎回親子15人くらいが参加。「基本は自由に子どもたちが遊ぶのを見守るスタンス。最近では、なにかがないと遊べない子どもたちが多い。なにもない中で自由に遊ぶことがむしろ大事」とメンバーの市川義章いちかわよしあきさん。「ボランティア

できくださる方も、これはダメとか、こうしなさいあしなさいという方はいないですね。「あそび〜の」は、文部科学省の家庭教育支援チーム<sup>※(1)</sup>にも登録され、町の事業として実施されています。これまで、子どもが暴力から自分を守るためのCAPプログラムなど外部講師を招いた講座などを実施しました。

「ぐ〜たらママ」は、産後ケアを目的とした赤ちゃんとお母さんのためのサロンです。町内にある上浅津<sup>かみあそづ</sup>農事集会所で毎月第1火曜日に開催。集会所は、はわい温泉ゆ〜たうんの隣にあり、メンバーが子どもたちを見守る間、お母さんたちは温泉でゆっくりすることもできます。「一番は、僕らがあだこうだと思ひ込みでするのではなく、子育て中の当事者がしてほしいと思ったことをしてあげること」と、市川さんは活動で大切にしていることを話します。

ちょっと助けてほしいときは助け合える、そんなコミュ

ニティが「くぶくぶ」です。「私、もともと地域活動とかボランティアとか好きというわけではなくて」と笑う山増さん。「高齢出産で、一人目のときは本当に大変だった。わけわからないし、身体もしんどいし、夫は忙しいし。だれかにたよらないとやっていけなかった。みんなですべてを支えあえる環境があれば、子育ては楽になる」と力をこめて話します。

### 傾聴のスキルもみがく

「くぶくぶ」のメンバーは、カウンセリングの資格をもつ山増さんを講師に日ごろから傾聴スキルをみがいでいます。お母さんたちと接するとき、相手を受容し共感する「傾聴力」は大事。「いったん自分のものさしは置いて、この方の話を聴こう」という姿勢が安心感につながると語ります。

※(1) 地域で子育てや家庭教育に関する相談にのったり、親子で参加する様々な取組や講座などの学習機会、地域の情報などを提供したりしています。



わ〜大きなシャボン玉だー

芝生のうえって気持ちいいー



湯梨浜学園で飼っているヤギとふれあう

講師を招いて開催したCAPプログラム



ハンモックでゆらゆら〜



メンバーの市川さんと新さんも強気にサポート



「あそび〜の」は湯梨浜学園のグラウンドで、「ぐ〜たらママ」は上浅津農事集会所で開催。どちらも無料で場所を提供してもらうなど地域の理解もばっちり！

## ファミサポとも連携したい

湯梨浜町にあるファミリーサポートセンター<sup>※(2)</sup>(以下、「ファミサポ」と略)がもっと気軽に利用できればと考える山増さん。「今は役場に行って受付して、面接を受けて登録して……。利用までのハードルが高い。ファミサポ担当者がぐ〜たらママに来てくれて、そこで面接ができればすぐ利用できる」と、子育て支援課との連携を模索中。「ファミサポは、自分のリフレッシュにも利用できる。お母さんがお友だちとランチに行くために子どもを預けるのもアリ」と続けます。

また、今後は活動のノウハウを伝えたり、ほかの子

育てサークルとのコラボもしたいと意欲をみせます。

「子どもが大きくなったときに、自分らしく生きられる社会になってほしい。子どもは大人をみて育つ。大人になるって大変そう！そんな社会、嫌じゃないですか。こうやって楽しく生きていけばいいと思える社会になれば」と山増さん。お母さんが元気に楽しく自立して、大人も子どもも生きやすくなっていく……。それを実現する近い将来を思い描いています。行政ともうまくつながって。

※(2)地域の中で育児の援助を受けたい人と、育児の援助を行いたい人が会員となって助け合う行政の制度です。



## 「くぶくぶ」メンバーの市川さん、山増さん、上山さん、新さん、田中さんを紹介しま〜す

いろんなご縁でつながった5人は、波長があう仲間

60代後半の市川さんと新さんは縁の下の力持ち的存在。若いメンバーの発想やアイデアを最大限サポートします！

### 上山梓さん (事務局)

鳥取大学の学生時代からまちづくり活動をして、地域活動を支援する仕事にもついでに上山さん。「化学反応がおきるかも！」と感じた市川さんの予想どおり、出会ったその日から山増さんと意気投合。3時間話をして、次に会ったときには、上山さん作の事業計画書ができていたそう！

### 山増香里さん (事業部長)

「くぶくぶ」の活動をしながら、自身の子育てと全体の仕事をやる山増さん。さらには、「育〜HAGU〜」というオンラインコミュニティも運営。「子育てしながらこれだけのことができるのは、人を頼ればできることの証明になる！」とにっこり。カウンセラー、発達障がい支援アドバイザーなどの資格をもち、「くぶくぶ」でフル活用中。

### 市川義草さん (会長)

「子どもの預かりあいをママ同士でする上山さんという人がいるよ！」と山増さんに上山さんを紹介したのは「いっちゃん」こと市川さん。もともと湯梨浜町出身。約40年間県外で仕事をした後、湯梨浜町にもどってきました。長く子育て支援のNPOの理事長を務めたこともあり、湯梨浜町でもなにかしたいと思っていたときに上山さんに出会いました。またの名を「シャボン玉おじさん」。いろいろな所に出向いて子どもたちと一緒に大きなシャボン玉を作ります。

### 田中祐貴さん

仕事をしながら湯梨浜町でボランティア団体の代表を務め、地域づくりをライフワークにしている田中さん。自分の団体の活動もしながら「くぶくぶ」に合流。

### 新勝彦さん

湯梨浜町で「おやじの会」の活動をしている新さん。山増さんと「おはな」の世話人をしてきた縁で「くぶくぶ」の初代会長に就任しました。木の実工作や竹でつくるジャングルジムの達人です！



取材でお話をきかせていただいた市川さん(左)と山増さん(右)

月に1回、お菓子やおにぎり、パンなどをつくってもってきてくださる平田良雄さん、春美さんご夫妻も仲間です。もともと、新さんといっしょに「おやじの会」の活動をしていたつながりで「くぶくぶ」に関わっています。



問合せ先

ゆりはま子育てネットワーク くぶくぶ  
kupukupu.kosodate@gmail.com

一緒に活動してくれる  
仲間を募集  
コラボも大歓迎!

フェイスブック



公式LINE



インスタグラム

